

令和元年度 ACTR

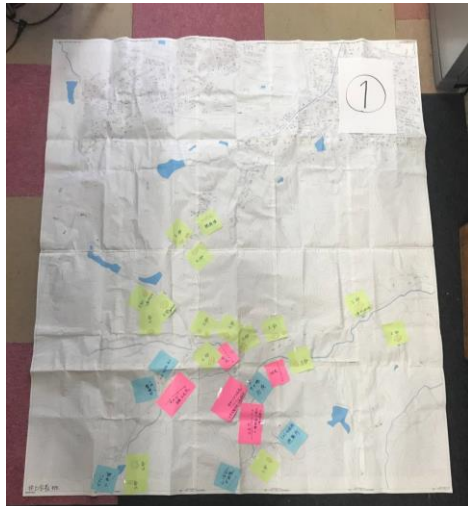
| | | | |
|---|-----|---------------|--------------------------------|
| 分類 番号 | A20 | 取組 名称 | 大堀区における地区防災計画の策定と住民の防災意識の変化の検証 |
| 研究代表者所属・職名： | | 生命環境科学研究科・准教授 | 氏名： 三好 岩生 |
| 研究担当者： 京都府立大学（奥谷三穂（敬称略）） 外部分担者・協力者（高橋晋氏，高橋和利氏（ほか）） | | | |
| 主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府福知山市、大堀区自治会 など | | | |
| 【研究活動の要約】 | | | |
| <p>これまで幾度も土砂災害や水害に遭ってきた福知山市の大堀区において、自主防災活動の見直しを行うとともに、活動を活性化し、活動が住民の意識変化に与える影響について検討した。</p> <p>本年度は荒木地区において3回のワークショップを開催し、住民の参加の下、①マイ防災マップの作成、②現場見学会、③避難行動タイムラインの作成を行った。また、ワークショップ開催の前後にアンケート調査と聞き取り調査を行い、活動の活性化に伴う住民の意識変化について検討した。</p> <p>研究の成果として、荒木地区のマイ防災マップや避難行動タイムラインが作られ、住民の防災意識が一層進む結果となった。しかしながら、避難行動タイムラインの理解度など、まだ十分でない点もあるため、今後さらに防災意識の啓発を兼ねた自主防災活動の進展が必要と考えられた。</p> | | | |
| 【研究活動の成果】 | | | |
| <p>○マイ防災マップおよび避難行動タイムラインの作成と情報共有</p> <p>住民参加のワークショップ形式で、空間的な災害危険度を示すマイ防災マップと、時間の経過の中での行動指標である避難行動タイムラインの作成を行い、それぞれわかり易い形で印刷・配布した。</p> <p>○自主防災活動の活性化に伴う住民の防災意識の変化の検証</p> <p>ワークショップの前後に実施したアンケート調査と聞き取り調査の結果解析から、以下が明らかになった。</p> <p>① ワークショップなどにより、災害危険度に関する空間情報はわかり易く伝えられるが、時間軸に沿った整理は伝わりにくく、その周知・徹底には勉強会を重ねる必要がある。</p> <p>② 現場での活動は災害のイメージを共有しやすく、災害に関する情報が伝わりやすい。</p> <p>③ ワークショップを活発に開催していると、参加者の意識が啓発されることは当然であるが、参加できなかった住民の意識にも波及効果があることが分かった。</p> | | | |
| 【研究成果の還元】 | | | |
| <p>R2.1.25 福知山市荒木公会堂 「荒木地区自主防災活動中間報告会」参加：関係者等約 25 名</p> <p>R 2 . 5 令和 2 年度日本砂防学会研究発表会（WEB 開催），口頭発表 1 件</p> <p>*R2.3 に開催が予定されていた「令和元年度府大 ACTR 研究発表会 in 福知山」は、感染症拡大防止のため中止となった。</p> | | | |
| 【お問い合わせ先】 生命環境科学研究科 准教授 三好 岩生 Tel: 075-703-5645 E-mail: i_miyosi@kpu.ac.jp | | | |

参考（イメージ図、活動写真等）

○防災ワークショップの様子



○ワークショップで集められた空間情報と成果品（マイ防災マップ）



現場見学会の様子

